

令和元年度 第1回富山県野生鳥獣保護管理検討委員会 議事録

1 日 時 令和元年5月29日（水） 14時00分～15時30分

2 場 所 富山県民会館509号室

3 検討事項

（1）富山県指定管理鳥獣捕獲等事業実施計画について

・平成30年度事業の評価等について、令和元年度事業の計画内容について

（委員）

事業実施箇所はどのように決めているのか。今の状況では県内全域で均等に捕獲しているとは言えない。

（事務局）

市町村及び地元の猟友会に協力していただける地域で実施している。県下では5市。捕獲場所は、カメラ等を設置し、捕獲効率が上がる生息密度が高いところを選定している。

（委員）

成幼比率などの生息状況を分析して、捕獲効率を上げてほしい。

（委員）

猟友会員の高齢化が進んでいるため、担い手育成に寄与する事業と考えている。市町村が実施する有害捕獲でも幼獣の捕獲率が高いことから、原因を調査してほしい。

（委員長代理）

新しい技術の導入、検証に対しては、一定の効果を上げていると考えられる。この事業と有害捕獲で、捕獲効率や費用対効果を比較し、将来的に富山県がどのような対策をしていくか検討する必要がある。また、最新の技術の活用方法など、富山県にあった対策を検討する必要がある。

（事務局）

見回り等の経費も対象としているため、1頭あたりの捕獲経費は高く出てし

まう。この事業で県内で初めてくくりわなを使ったが、有害捕獲でも使われだしていることから、技術等の普及にはつながっていると考えている。

(2) 令和2年度カモシカ生息密度調査の手法について

・第2期管理計画策定（令和3年）のため

(委員)

生息分布調査について、アンケートの対象者はどうなっているか。

(事務局)

前回同様、市町村担当、鳥獣保護管理員、猟友会員が対象。

(委員)

メンバーを固定すると偏ったデータになる可能性がある。登山者等一般の方からも情報収集を行い、データとして使用するか検討する必要があるのではないかと。

(委員)

カモシカの行動範囲はどのぐらいなのか。1キロ圏内で3頭目撃したこともある。

(事務局)

生息密度や場所によって大きな違いはあるが、猿倉山周辺では長径400メートル、1キロを超えない範囲と考えられる。若齢個体の分散の過程で、狭い範囲に複数頭いる場合もある。

(委員長代理)

場所によって行動圏は違ってくる。数十ヘクタールになる場合もある。比較的定着性があるため、目撃した個体はその周辺に生息していると考えられる。

(委員)

区画法では発見率が低く、過小評価している可能性があるのではないかと。また、発見率が高い他の方法があれば調査手法の変更を検討する必要があるのではないかと。

(事務局)

林内の見通しが良い落葉期に個体を確認するため、定着性が強く、幅広く移動しないカモシカの生態から個体を確認できれば比較的正確な数字になると考えている。

(委員長代理)

偶然見逃してしまう可能性があるため、普通は同じ場所で何回か繰り返し調査する。広い面積で頭数の推定をするなら区画法がベストだが、繰り返しは必要になると考えられる。

(事務局)

予算も踏まえ、対応を検討したい。

(3) 委員長代理総括

指定管理鳥獣捕獲等事業については、担い手の育成ということで効果が上がっている。生息実態について十分解析をして効果的な捕獲につなげてほしい。また、捕獲効率など富山県の実情に応じた事業で効果を検証してほしい。富山県独自の捕獲方法も検討してほしい。

カモシカの生息密度調査については、いろいろな制約の中で密度調査のプランニングが行われているが、将来的にはもう少し精度の高い調査方法の検討も必要になるのではないかと。